

平成28年 9月27日

「ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2015」

表彰式の開催

シーニックバイウェイ北海道推進協議会は、下記のとおり「ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2015」表彰式を開催します。

最優秀賞には、種拾いから種まき、育苗、植樹まで行う独自のエコサイクルを確立し、長年にわたる活動が評価された「そらの森の植樹活動-地域で育てる森プロジェクト-」（釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ）が選ばれました。

シーニックバイウェイ北海道推進協議会では、平成20年度からシーニックバイウェイ北海道の推進に向け、他の模範となるルート活動で、将来への発展性が高く評価される取組を表彰する「ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト」の取組を実施しています。

今回は、第13回シーニックバイウェイ北海道推進協議会（平成28年8月4日開催）にて、決定した各賞及び最優秀賞の表彰を行います。

記

日時：平成28年 9月29日（木） 16:30～

場所：札幌第1合同庁舎 2階 講堂（札幌市北区北8条西2丁目）

※最優秀賞及び部門賞は、シーニックバイウェイ北海道推進協議会長（北海道商工会議所連合会 高向会頭）から、また、活動団体賞は、北海道開発局長から表彰する予定です。

※当日、会場には記者席を用意しています。また、表彰式終了後に受賞団体へのインタビュー時間を設ける予定です。

【添付資料】

別紙1：ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2015受賞一覧（（参考）活動団体エントリーシート等）

別紙2：シーニックバイウェイ北海道の概要

【シーニックバイウェイ北海道とは・・・】

みちをきっかけに地域と行政等が連携し、「美しい景観づくり」、「活力ある地域作り」、「魅力ある観光空間づくり」を目的に地域ごとに特色のある様々な活動が進められ、全道で14ルート約400の団体が活動しています。

詳細は、シーニックバイウェイ北海道推進協議会ホームページを参照ください。

http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_doro/sbh/

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

建設部 道路計画課 開発専門官 佐藤 茂一（内線 5845）

開発監理部 開発連携推進課 開発専門官 西山 泰幸（内線 5418）



ベスト・シーニックバイウエイズ

プロジェクト2015 受賞プロジェクト一覧

受賞部門	プロジェクト名	ルート名
 最優秀賞	そらの森の植栽活動 ～地域で育てる森プロジェクト～	釧路湿原・阿寒・摩周 シーニックバイウエイ
 部門賞 (美しい景観づくり賞)	シーニックデッキの設置	東オホーツクシーニックバイウエイ
 部門賞 (活力ある地域づくり賞)	そらの森の植栽活動 ～地域で育てる森プロジェクト～	釧路湿原・阿寒・摩周 シーニックバイウエイ
 部門賞 (魅力ある観光空間づくり賞)	ウェルカム北海道新幹線開業シー ニックd eナイト	函館・大沼・噴火湾ルート/どうな ん・追分シーニックバイウエイ ルート
 活動団体賞	ウェルカム北海道新幹線開業シー ニックd eナイト	函館・大沼・噴火湾ルート/どうな ん・追分シーニックバイウエイ ルート

(参考)活動団体エントリーシート

活動名称

そらの森の植樹活動～地域で育てる森プロジェクト～

エントリー部門

活力ある地域づくり

ルート名称

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ



①活動概要

- 活動の目的・目標：国道241号沿線の森づくりを通じて、美しい景観づくりを進めるだけでなく、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイの各活動の連携、市町村界を越えた地域の連携、年齢や障がいの有無を超えたつながりを強め、地域全体の活力を向上させる。
- 活動内容：そらの森（弟子屈飛行場跡地：弟子屈町）での森林再生を目指した森づくり。
- 活動期間：平成22年度～平成27年度（6年目）。



平成27年度の植樹イベントの様子

②活動の体制



移植作業の様子
(木の実がこんなに大きく成長)

③PRポイント

【工夫した点】生長まで継続的に活動を行うための資金(苗木代、維持費)の確保が課題であった。

- 苗木の植樹活動、育成活動を継続できるよう、ドングリやクルミを弟子屈町内から拾い集め、種まきを行い、苗木づくりを行っている。
 - 初年度に植えた幼木が植樹できる大きさまで伸びている
 - シーニック森として植樹する際の苗木として活用し、苗木代を森の維持費に転用している
- 植樹活動、育成活動の継続のため、当該ルートで実施しているシーニックカフェプロジェクトと連携し、苗木の支援費を含んだオリジナルエコバック、オリジナルタンブラーをシーニックカフェで販売している。
 - タンブラーは毎年30個程度の売り上げがあり、継続的な活動に一役かっている

【活動の成果】

- 共同での植樹活動を通じて、普段触れ合わない人々が触れ合い、活動の輪が広がっている。
- 長い時間を要するが、地域の方が自ら育て、地域の方に愛される景観が少しずつ育っている。



釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ
「樹になるタンブラー」の販売

(参考)活動団体エントリーシート

活動名称

シーニックデッキの設置

エントリー部門

美しい景観づくり

ルート名称

東オホーツクシーニックバイウェイ

部門賞

①活動概要

●活動の目的・目標：

景観の良い駐車スペースのあるポイントに、シーニックデッキを設置し旅行者などがゆっくりと景色を眺め休憩する事により、東オホーツク地域全体の景観PRをはじめ地域との交流を促進します。また、農産物等の特産品販売等、コミュニティビジネスの創出の可能性も高め、更に道路利用者のオアシスとして交通安全に寄与させます。

●活動内容：

常設されているウトロポケットパーク、メーメーベーカーリー（斜里）の他、あばしりフロックス公園、メルヘンの丘（女満別）、季風クラブ（ウトロ）、コスモスロード（上斜里）、コミット（清里）、斜里岳山小屋清岳荘（清里）、小清水リリーパークにおいて地域交流、休憩、良好景観鑑賞用のウッドデッキを春～秋にかけて設置しています。また、シーニックデッキの周知徹底のため、通常設置している数カ所から人の多く集まる箇所にデッキを集約し、『シーニック・マルシェ』を開催しています。

●活動期間：

平成17年度～（マルシェは上斜里コスモスロードでの試行を含め平成19年度～）

②活動の体制

●活動団体、人数、体制図等

【デッキ設置・撤去】網走市観光協会、小清水町観光協会、東藻琴観光協会、清里町商工会、きよさと観光協会、上斜里フラワーロード推進協議会、清里町花と緑と交流のまちづくり委員会、知床斜里町観光協会

【マルシェ】上記の活動団体の他、ルート内の農商工業者（出店者。10団体/年程度）



シーニックデッキ（あばしりフロックス公園）

③PRポイント

利用促進のため、マルシェやルートマップ、HPやSNSを活用してルート内外への取り組みと設置場所・時期の周知を行いました。ルート内の新たな景観資源となりました。マルシェの実施により、ルート内でのシーニックの認知度向上、農商工業者の新たな販売機会を創出することができました。デッキの老朽化による補修と維持に係る体制の確立を重点的に行っていきます。



シーニックマルシェ（道の駅パパスランドさつる）



①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

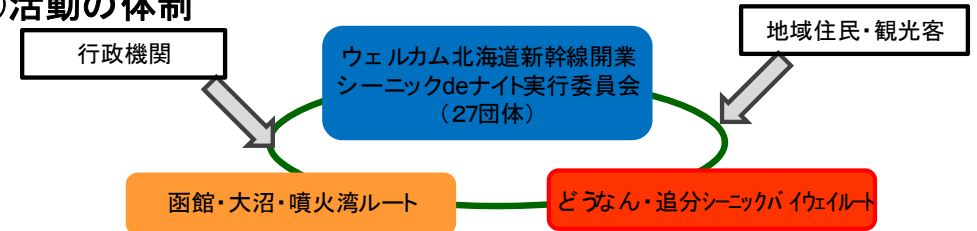
●活動の目的・目標

手作りのワックスキャンドルで道路沿線などにあかりを灯すイベント「シーニックdeナイト」が、平成18年度から函館・大沼・噴火湾ルートでスタートし、どうなん・追分シーニックバイウェイルートも平成22年度から「どうなんシーニックdeナイト」として実施。今年度、各ルートで通年行われているシーニックdeナイトを継続実施する一方、新幹線駅として新しく誕生する新函館北斗駅・木古内駅のエリアで活動する両ルートが連携した事業として、「ウェルカム北海道新幹線開業シーニックdeナイト」を新たに企画。本事業は、北海道新幹線が開業する3月26日、新幹線で来られる観光客への「おもてなし」と長年地域が切望し続けた「喜びの気持ち」を、地域全体で気運を高めながら、全て手作りによるワックスキャンドルに想いを込め、新函館北斗駅・木古内駅・函館駅の3駅にて、おもてなしイベントを同開催するもの。新幹線開業イベントが様々な機関・団体等に行われている中、3駅同時に開催するイベントは本事業のみ。

●活動内容

北海道新幹線開業日夜（19：00～22：30）、全て手作りのワックスキャンドルを、新函館北斗駅に500本、木古内駅に400本、函館駅に400本、計1,300本設置点灯した。このワックスキャンドルを作るために必要な牛乳パック（1L）を収集するため、函館市地域交流まちづくりセンターなど計11箇所（函館ルート及びどうなんルート内）に回収箱を設置し、地元コミュニティラジオや新聞等を通じ地域に発信することで、1,986本の牛乳パックを収集した。さらに、地域住民や観光客が自由に参加できるワックスキャンドル製作体験会を2回（函館朝市ひろば、木古内保育園）実施し、計1,392本のワックスキャンドルを製作。加えて、全てのワックスキャンドルは、地域住民や関係者等からの思いのメッセージ付きのものとなっており、道南地域全体で連携、気運を高めながら、おもてなしの心を醸成した。当日には、新幹線で来られる観光客をおもてなしするためのキャンドル設置点灯の他、ポンポンや手旗、記念撮影用ボード、ノベルティを準備。

②活動の体制



③PRポイント

●工夫した点、苦労した点

- ・実行委員会やルート関係者間の情報共有ツールとして、イベント当日に向けた現在の進捗状況等をまとめた「キャンドル通信」を計6回作成し、配信。
- ・地域住民や観光客に対して、牛乳パックの回収やキャンドル製作体験会開催などの情報を、地元コミュニティラジオや新聞（計11回）、テレビ、ポスター・チラシを通じ発信。

●活動の効果

- ・キャンドル製作体験会やキャンドルメッセージ入れなどの事業準備段階から、道南地域全体（函館ルート及びどうなんルート）で、子供から大人まで幅広い層の関係者（地域住民や観光客など）が一体となって事業を実施することができ、次年度以降のルート連携事業のモデルとすることができた。



(参考) ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト



平成20年度から、シーニックバイウェイ北海道の推進に向け、他の模範となる活動で、将来への発展性が高く評価できる取組を選出・表彰する取組。

▼2014

「ライフコンシェルジュ（ご当地風土アドバイザー）育成事業」（トカプチ雄大空間）



▼2013

「タカラモノプロジェクト」（支笏洞爺二セコルート）



▼2012

「トカプチまる得めぐり券事業」（トカプチ雄大空間）



▼2011

「学校シーニックバイウェイ」（南十勝夢街道）



▼2010

「ヒラメ底建網オーナーin遠別」（萌える天北オロロンルート）



▼2009

「ウィンターサーカス」（大雪・富良野ルート）



Creator : 奥山 三彩
Photographer : Haruo Kikuchi

(参考) ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト

▼各賞決定までの流れ

募集開始



各ルートから活動の応募



■ 活動団体賞

各ルートによる投票

- ※対象：指定及び候補ルート
- ※自ルート以外に、持ち点10点を自由配点
- ※最多得点を得たプロジェクトを活動団体賞として選出



■ 部門賞、最優秀賞

ルート審査委員会にて審査

- ※対象：指定ルート
- ※ルート審査委員が、持ち点10点を自由配点
- ※最多得点を得たプロジェクトを部門賞候補として選出
- ※選出された部門賞候補から最優秀賞を選出



推進協議会にて活動団体賞、部門賞及び最優秀賞を決定

(参考) ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト

ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2015のエントリー状況等

<表彰>

●活動団体賞 1 件（指定・候補ルートを対象） 【エントリー数 14件】

●部門賞 3 件（指定ルートを対象）

<エントリー部門>

- | | |
|---------------|-------------|
| ①美しい景観づくり賞 | 【エントリー数 4件】 |
| ②活力ある地域づくり賞 | 【エントリー数 3件】 |
| ③魅力ある観光空間づくり賞 | 【エントリー数 6件】 |

●最優秀賞「ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2015」1 件（指定ルートを対象）
部門賞の中から 1 件選出

<評価の視点>

地域の資源を発見・活用し、有形・無形の「新しい価値」を生み出しているか否かに評価の軸を置くと共に、以下の点に留意し、プロジェクトの評価を行う。

－部門賞及び大賞－

- 持続性（取組の継続性の程度を評価）
- 浸透性（地域内への広がり程度の評価）
- 拡張性（モデルケースとしての地域外へ展開の程度を評価）
- 連携性（地域同士や他団体との連携の程度を評価）
- 先進性（新しいものに取組んでいく姿勢の程度を評価）
- 効果性（定量的・定性的な効果の程度を評価）
- 人材育成

(参考) シーニックバイウェイ北海道の概要

シーニックバイウェイ北海道とは

シーニックバイウェイ北海道は、みちをきっかけに地域が主体となって、行政等と連携し、景観をはじめとした地域資源の保全・改善を進めることで「美しい景観づくり」「活力ある地域づくり」「魅力ある観光空間づくり」を図り、「愛着と誇りの持てる地域の実現」を目指す制度。

シーニックバイウェイ北海道の主な取組



シーニックバイウェイ北海道推進協議会の役割

- 全道レベルの公的機関・団体との組織連携により以下を役割として位置付け
 - ・指定ルート及び候補ルートの指定
 - ・シーニックバイウェイ北海道の制度運営に関する各種決定・改善・支援
 - ・指定ルートが、持続的かつ効果的に活動できる環境に関する調査・研究

シーニックバイウェイ北海道推進協議会の構成団体・機関

○構成団体・機関

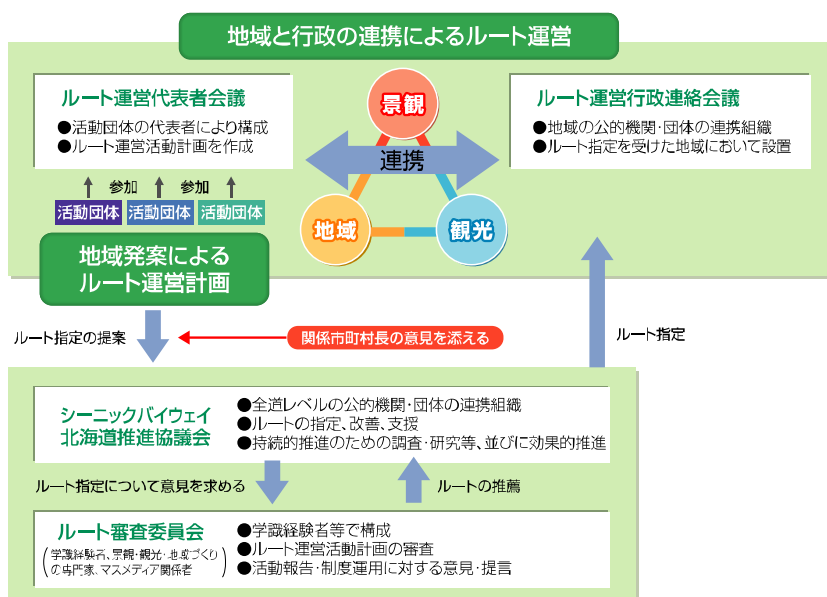
北海道商工会議所連合会、北海道経済連合会、北海道商工会連合会、北海道観光振興機構、日本観光振興協会北海道支部、日本旅行業協会北海道支部、日本自動車連盟北海道本部、北海道、林野庁北海道森林管理局、経済産業省北海道経済産業局、環境省北海道地方環境事務所、国土交通省北海道運輸局、国土交通省北海道開発局（事務局）【13 構成団体・機関】

○協力団体・機関

北海道農業協同組合中央会、北海道林業協会、北海道市長会、北海道町村会【4 構成団体・機関】

ルート指定までの流れ

シーニックバイウェイ北海道では、地域で組織されたルート運営代表者会議が、ルート運営活動計画を作成し、シーニックバイウェイルートまたは、候補ルートのどちらかを選択して、ルートの提案を行います。提案されたルートについて、審査委員会の意見を踏まえて、シーニックバイウェイ北海道推進協議会がシーニックバイウェイルートとして指定、もしくは候補ルートとして指定します。



シーニックバイウェイ北海道導入の経緯

平成13年8月	平成14年度国土交通省重点施策として制度要求
平成15年2月	「北海道におけるシーニックバイウェイ制度導入モデル検討委員会」設置
平成15年4～7月	モデルルートの指定・活動団体の募集・認定
7月～	モデルルートにおける活動の実施
平成17年2月	検討委員会が報告をとりまとめ
3月	シーニックバイウェイ北海道推進協議会設立
平成17年度～	本格導入

▼ シーニックバイウェイ北海道推進協議会ホームページ

http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_doro/sbh/

